

令和元年度

両川小学校の教育

— 後期 学校評価 —

新潟市立両川小学校

2020年 1 月 17 日

学力の向上

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4 肯定的回答	3	2 否定的回答	1
学校での学習はよくわかります。	59人	50人	6人	0人
	94.5 % (↓3.7)		5.5 %	
将来の夢やつきたい仕事があります。	78人	25人	11人	2人
	88.2 % (↓3.0)		11.8 %	
追加項目 自分で問題(学習課題)を解決しました。	43人	62人	10人	1人
	90.3 %		9.7 %	
友達や先生のお話を、最後まで口を閉じて聴いています。	56人	45人	14人	1人
	87.4 % (↑2.9)		12.6 %	
「10分×学年」の家庭学習を、ほとんど毎日やっています。	74人	28人	12人	1人
	88.4% (↑4.3)		11.6 %	
いつもの授業では、学習課題が黒板に書いてあります。	87人	19人	9人	1人
	91.3 % (↓6.4)		8.7 %	
いつもの授業では、自分の考えを発表する機会があります。	76人	28人	11人	1人
	89.7 % (↑8.0)		10.3 %	
いつもの授業では、友達同士で話し合う活動をおこなっています。	68人	40人	7人	1人
	93.3 % (↑3.8)		6.7 %	
追加項目 いつもの授業で、先生の指示は分かりやすいです。	76人	36人	3人	1人
	96.7 %		3.3 %	

保護者アンケート	4 肯定的回答	3	2 否定的回答	1
学校での学習を、理解していると思います。	36人	66人	9人	1人
	91.3 % (↓0.8)		8.7 %	
学校での学習に、意欲的に取り組んでいると思います。	35人	68人	9人	0人
	91.8 % (↑9.5)		8.2 %	
家では「10分×学年」以上の家庭学習を、毎日やっています。	41人	43人	16人	12人
	74.7 % (↓2.3)		25.3 %	
お子さんの宿題プリントや自主学习ノートを、確認しています。	45人	33人	25人	9人
	69.9 % (↓5.8)		30.1 %	
お子さんには「なれるとうれしい仕事」や「やってみたい仕事」があると思います。	44人	44人	21人	3人
	78.5 % (↓7.8)		21.5 %	

()の数値は前期と比較しての増減

前期の結果と同様に、児童・保護者のどちらも肯定的な評価が多く、項目の半数が90%台の結果でした。今年度は「ペア」や「グループ」で考えを伝え合う場面を積極的に取り入れることで、子ども一人一人が主体的に学びに向かえるよう、全職員で指導を工夫・改善してきました。取組の成果として、「自分の考えを発表する機会がある」項目が9月より8ポイント上昇しました。今後も、全員の子どもがわかる・できる授業作りを目指し、一つ一つの取組を丁寧に行っていきます。

(学力向上部主任 徳永 卓)

1月からの取組の重点

- 「全員の子どもが、わかる・できる授業」作りを目指します。そのために、アンケートの結果をもとに、児童一人一人が意欲的に学習に取り組めるように工夫していきます。具体的な取組の様子は、学年・学級だより等をご覧ください。
- 「10分×学年の家庭学習」の取組が習慣になるまで、引き続き保護者と学校と連携して取り組みます。

思いやりの心

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
学校生活は楽しいです。	78人	29人	8人	1人
	92.2 % (↓2.5)		7.8 %	
自分から進んであいさつをしています。	81人	26人	7人	2人
	91.9 % (↓3.4)		8.1 %	
時間を守って、生活しています。	69人	41人	5人	1人
	95.0 % (↓0.2)		5.0 %	
追加項目 みんなが気持ちよく過ごすためのルールを守ることができました。	71人	40人	4人	0人
	96.5 %		3.5 %	
自分にはよいところがあります。	71人	34人	11人	1人
	90.1 % (↓5.1)		9.9 %	
友達のよいところを見付けたり、励ましたりしています。	66人	40人	6人	3人
	92.0 % (↑5.4)		8.0 %	

保護者アンケート	4	3	2	1
	肯定的回答		否定的回答	
学校は楽しいと感じていると思います。	52人	57人	2人	1人
	97.0 % (↑1.8)		3.0 %	
進んであいさつをしていると思います。	33人	64人	14人	1人
	86.5 % (↑5.4)		13.5 %	
家庭や地域の中で、きまりやマナーを守って生活していると思います。	44人	63人	5人	0人
	95.3 % (↑6.5)		4.7 %	
友達や家族のために、自分が役立っていると感じていると思います。	43人	56人	11人	1人
	88.7 % (↑1.1)		11.3 %	
思いやりと親切な気持ちをもって、行動していると思います。	48人	57人	7人	0人
	93.9 % (↓1.5)		6.1 %	

()の数値は前期と比較しての増減

児童アンケート「友達のよいところを見付けたり励ましたりしている」項目で、9月と比較して5.4ポイント上昇する等、すべての項目で90%を上回りました。保護者からの肯定的評価も9月より上昇しました。保護者の方々の見守り、お声掛けのお陰です。日常生活や行事の中で自分の役割を最後までやり遂げる姿や互いにアドバイスし受け入れ合う姿が多く見られるようになりました。

今後も、関心・意識が高くなった結果、自己評価が低くなった児童に寄り添い、一人一人が「自分には良いところがあり、友達や家の人に認めてもらっている」と実感できるような取組をさらに進めていきます。

(生活指導部主任 墓前 美樹)

1月からの取組の重点

○「共に創る(共創)」活動を通し、「自分や他の人のよさを認め合える関係づくり」をさらに進めていきます。そのために、互いに考えを出し合ったり、活動の振り返りを行ったりする場を意識的に取り入れていきます。

体力の向上・健康増進

児童・保護者アンケートの結果

4 とてもよくあてはまる 3 まあまああてはまる 2 あまりあてはまらない 1 まったくあてはまらない

児童アンケート	4	3	2	1
肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答
否定的回答	否定的回答	否定的回答	否定的回答	否定的回答
普段、電子ゲームは1時間より少ないです。	42人	32人	23人	19人
	64.2% (↓3.8)		35.8%	
目安の時刻までに寝ています。	28人	38人	30人	20人
	57.1% (↓1.5)		42.9%	
体を動かして遊んだり運動したりすることが好きです。	84人	23人	7人	2人
	92.0% (↑9.3)		8.0%	
【1～2年】好き嫌いなして食べます。 【3～6年】栄養のバランスに気を付けて食べています。	56人	38人	20人	2人
	80.8% (↑7.5)		19.2%	

体を動かす項目、栄養バランスよく食べる項目で9月よりも肯定的評価が上回りました。

メディア時間に関する項目、就寝に関する項目において、9月よりも肯定的評価の割合が低いです。

少しでも改善できるよう、学校と家庭の両方で、継続して取り組んでいきましょう。(健康体育部主任 瀬沼久美子)

保護者アンケート	4	3	2	1
肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答	肯定的回答
否定的回答	否定的回答	否定的回答	否定的回答	否定的回答
普段、電子ゲームは1時間より少ないです。	46人	26人	25人	15人
	63.9% (↓4.8)		36.3%	
普段、TVは1時間より少ないです。	16人	26人	44人	26人
	37.9% (↑5.4)		62.1%	
目安の時刻までに寝ています。	25人	34人	42人	12人
	52.1% (↓1.9)		47.9%	
帰宅後に、運動したり体を動かす遊びをしたりしていると思います。	22人	39人	36人	16人
	54.2% (↓9.4)		45.8%	
栄養のバランスに気を付けて食べています。	26人	58人	26人	1人
	75.6% (↑0.6)		24.4%	

()の数値は前期と比較しての増減

1月からの取組の重点

○「メディア時間」「就寝時間」について、学校と家庭の両方で継続して改善を促します。

特別支援教育の推進

9月以降も、すべての子どもにもわかる・できる授業を推進する土台として、教育活動のユニバーサル化を小中合同で進めてきました。後期の実施状況については「①教室環境」「②学習や生活のきまり」「③関係づくり」「④授業の構成」「⑤教師の話し方」「⑥板書やノート、ファイル」「⑦教材・教具」のすべての項目で100%でした。

内容面においては、例えば「⑦教材・教具」の中の「児童の実態や予想されるつまずき・困り感に対応するための教材・教具を準備し活用する」点において工夫・改善の必要が伺えました。授業目標を焦点化し、視覚化した教材を提示することで、すべての子どもが主体的・対話的に課題解決できるよう、引き続き小中連携して教育活動のユニバーサル化を進めていきます。(特別支援部主任 長島 裕)

1月からの取組の重点

○授業目標を焦点化し、視覚化した教材を提示することで、すべての子どもが主体的・対話的に課題解決できるようにする等、各学級の子どもの実態に応じた教育活動のユニバーサル化を進めていきます。